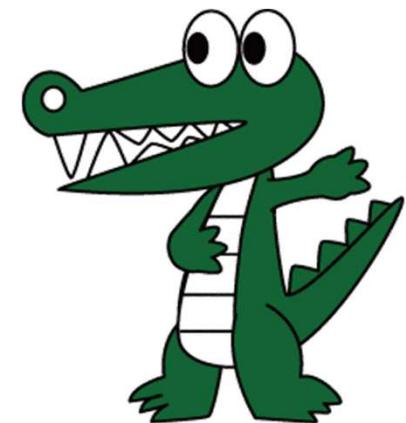




図書館ネットワークの未来を考える ワークショップについて

令和4年（2022年）10月

豊中市



本日の流れ

本日のワークショップは、全体で約120分を予定しています。

ワークショップの次第は下表のとおりです。

※本日は目的や背景等のご説明とアイスブレイクを中心としています。

18 : 30	(5分)	開会・挨拶
18 : 35	(30分)	ワークショップの目的 基本構想について 公共施設の現状について ワークショップの進め方
19 : 05	(20分)	自己紹介と図書館への思い、今後の図書館への期待 (アイスブレイク)
19 : 25	(40分)	テーマ：基本構想への意見
20 : 05	(20分)	本日のまとめ・発表
20 : 25	(5分)	閉会・次回の予定など



ワークショップの目的・テーマ



パブリックコメントの目的と基本コンセプト

- ◆ 豊中市では市民アンケートや有識者ヒアリング、オンラインミーティング、パブリックコメント等を経て、令和3年2月に（仮称）中央図書館基本構想（以下、基本構想）を策定。
- ◆ 本ワークショップは豊中市の図書館の未来について、基本構想の実現をめざし、市民の皆様のご意見をお聞きすることが目的。

<基本コンセプト>

つながる。わたしの図書館で。

市民のニーズや抱える課題が多様化・複雑化している今、
図書館は「つながる」という機能を大切にしたいと考えています。

知や情報、本と人をつなげる。人と人、地域や組織がつながる。過去と今、そして未来をつなぐ。
つながることで新しい可能性をひらき、暮らしをより豊かにする。

そして、明日のとよなかへつながる種をまく。

誰もが、自分なりに使い、楽しみ、つながる図書館へ。

豊中市立図書館は、すべての人の「わたしの図書館」であることをめざします。



本ワークショップのテーマ

- ◆ 本ワークショップでは、下記の4つのステップで図書館に関わる、「市全体の公共施設の状況」「図書館のネットワーク」「中央図書館の場所や適地」について皆さまにご議論頂く予定です。

STEP 1

【第1回】 (R4. 10. 13)

＜目的＞図書館の現状と基本構想の内容、豊中市全体の公共施設の状況を理解する

STEP 2

【第2回】 (R4. 10. 27)

＜目的＞図書館ネットワークについて考える

STEP 3

【第3回】 (R4. 11. 10)

＜目的＞中央館の場所について考える

STEP 4

【第4回】 (R4. 11. 24)

＜目的＞中央館の適地において重視すべき要素を考える

豊中市の図書館の現状



各施設現況

◆ 現在 4 つの地域館・ 5 つの分館・ 2 つの図書室がある。

◆ 岡町図書館が最も古く手狭。複合施設が多い。

	施設名 蔵書冊数	建物 建設年	延床面積	写真
地域館	岡町 図書館 25万冊	1969年	3,272.08m ²	
	庄内 図書館 7万冊	1975年	1,085.63m ²	
	千里 図書館 15万冊	2008年	2,379.24m ²	
	野畑 図書館 30万冊	1988年	3,846.46m ²	

	施設名 蔵書冊数	建物 建設年	延床面積	写真
図書室	いぶき (3階) サービス	1983年	—	
	利倉西 センター 図書室 0.3万冊	1995年	19.25m ²	

	施設名 蔵書冊数	建物 建設年	延床面積	写真
分館	東豊中 図書館 6.5万冊	1993年	1,068.58m ²	
	服部 図書館 6.5万冊	1998年	708.29m ²	
	高川 図書館 8万冊	2000年	1,547.01m ²	
	蛭池 図書館 6.5万冊	2003年	672.98m ²	
	庄内幸町 図書館 1.1万冊	1993年	484.58m ²	

※庄内図書館と庄内幸町図書館は今後整備される庄内コラボセンターへの集約が予定。

※いぶき（3階）サービスは現在は予約受け渡しと返却本受付のみ。図書館の蔵書はなし（いぶき所蔵）

利用現況

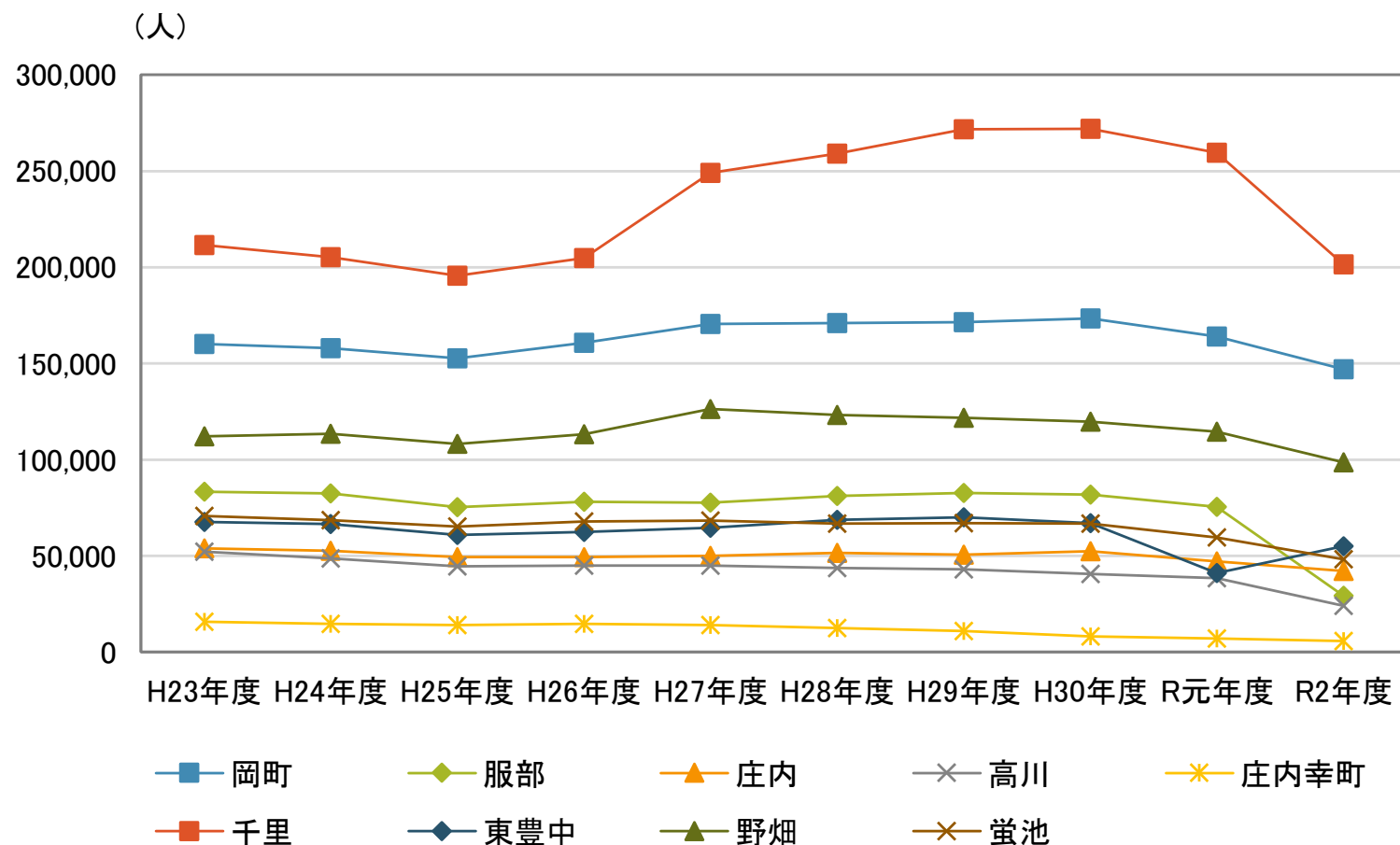
- ◆ 全市の年間の利用人数は全体で令和2年度は651,869人。
- ◆ コロナ禍前の令和元年度は807,077人、平成23年の827,313人と比べ減少。
- ◆ 各館の令和元年度と平成23年を比較すると下記のとおり。

➤ 増加順：千里（1.23）、岡町（館内）（1.02）、野畑（1.02）。

➤ 減少順：庄内幸町（0.44）、東豊中（0.61）、高川（0.74）、
蜷池（0.84）、庄内（0.88）、服部（0.91）

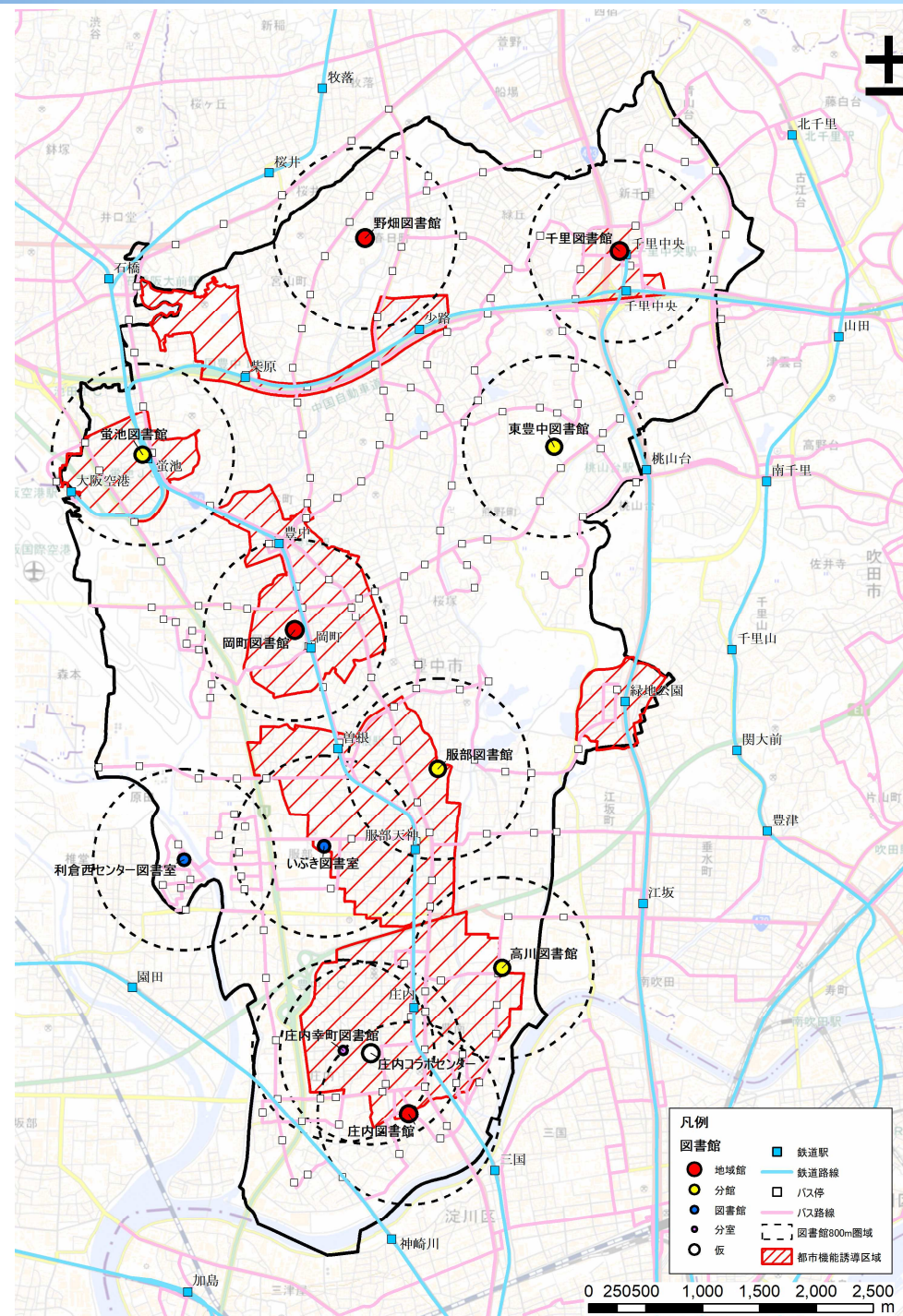
※東豊中図書館は、空調工事により令和元年9月～12月（4か月間）休館。

休館がなかった平成30年度と平成23年度を比較すると「0.99」となります。



各施設立地現況

- ◆ 図書館は主に阪急沿線その他、千里中央といった主要駅に立地している他、東豊中図書館や野畑図書館のように住宅地内で立地。
- ◆ 図書館の徒歩圏内（半径800m）人口は約196,000人であり、全市401,121人に対し、約50%の割合。
※令和2年国勢調査より算出
- ◆ 直接徒歩で図書館へのアクセスが難しい場合であっても、鉄道やバス路線を利用し、アクセスできる場所が多い。
- ◆ 都市機能の立地や誘導をめざす「都市機能誘導区域」内の立地が多い。

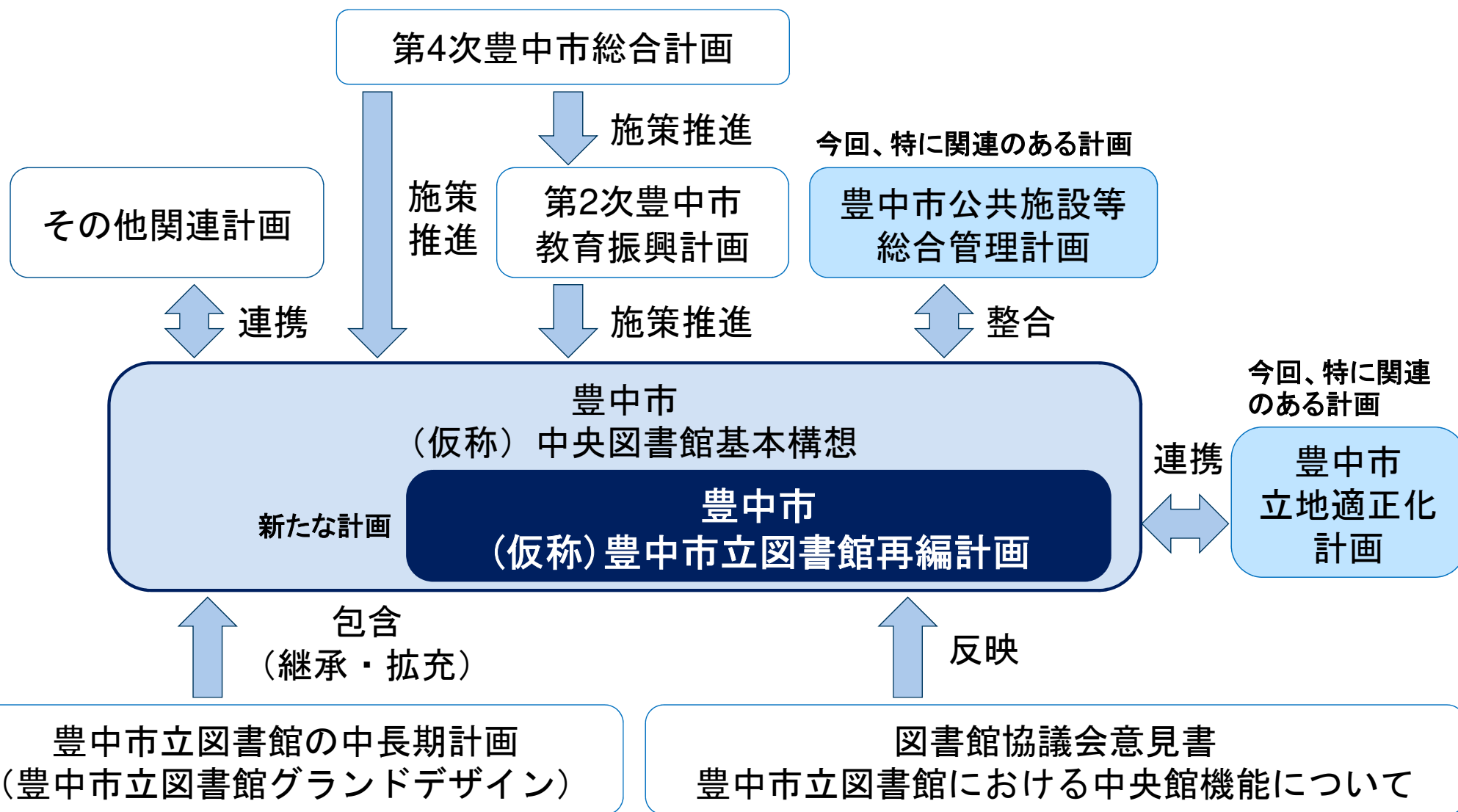


(仮称) 中央図書館基本構想



(仮称) 豊中市立図書館再編計画について

- ◆ 新たな計画は、基本構想の一部として、特に中央図書館をはじめ、主に図書館の立地に関する計画。（以下、「再編計画」）



※各分野別計画には、「第2期豊中市子育て・子育て支援行動計画 こどもすこやか育みプラン・とよなか」を含みます。
なお、「豊中市子ども読書活動推進計画」の理念は、同計画に包含しています。

基本構想の3つの基本方針との関連

- ◆ 基本コンセプト実現に向け、3つの基本方針のもとで取り組む。
- ◆ 今回の「再編計画」は特に下記の着色部分の施設に関連した内容。

(1) すべての市民の「わたしの図書館」へ ～図書館の多様な利用を提案～

サービスポイント設置等、利便性確保による
利用者層の多様化

学校連携・アウトリーチ等
特徴的な取組みの維持

これからの生活様式に即した
非来館型サービス

「場としての図書館」の効果的な活用

(2) 知や情報とつなげる ～資源を生かし、市民の情報アクセスを保障～

(仮称) 中央図書館を中心とした
サービス網の構築

デジタル化社会に対応した、
多様な媒体による情報の提供

政策課題や地域課題に
対応する情報の積極的収集

人と人、人と情報をつなぐ
担い手の育成

(3) 未来へつなぐ ～持続可能な組織の構築～

事業コストを意識した運営計画
(目標設定と行程の明確化)

計画的な施設の更新改修と再編

公民連携や自治体間連携の
強化による効率的な管理運営

ICTの積極的な活用による人員配置

基本構想における中央図書館の配置

- ◆ 中央館は、市内全域から比較
的アクセスしやすい位置
- ◆ 庄内・千里の両地域館との配
置バランスを考慮
 - 阪急電鉄宝塚線のうち、
市の中心部に近い豊中
駅・岡町駅・曽根駅の周
辺エリア
 - 豊中市立地適正化計画の
都市機能誘導区域内に優
先的に立地させる

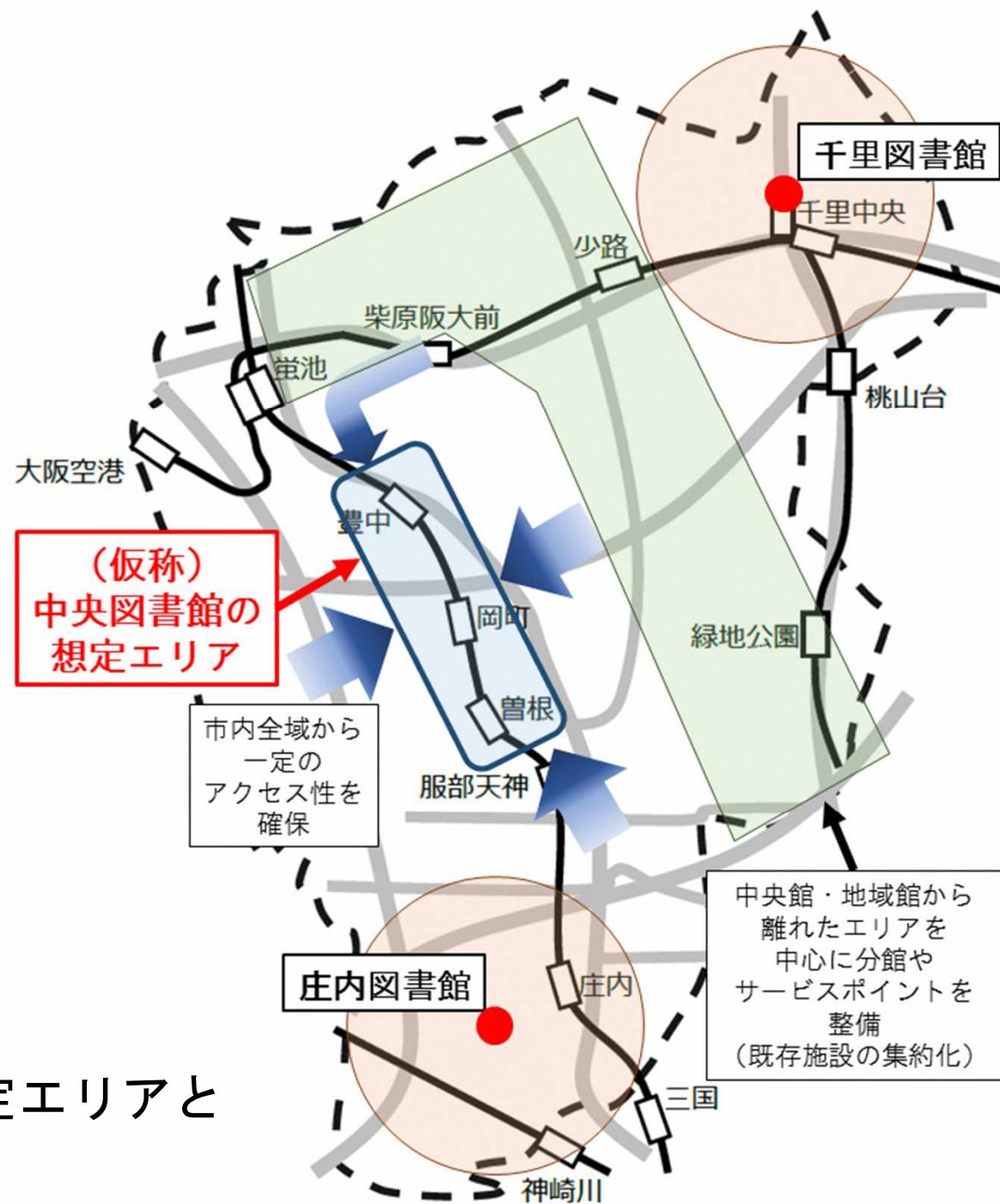


図 (仮称) 中央図書館の想定エリアと
施設配置のイメージ

基本構想における施設配置方針

- ◆ 公共施設等総合管理計画に掲げる公共施設等マネジメント基本方針
⇒「戦略的配置、複合化・多機能化の推進」
- ◆ （仮称）中央図書館（以下、中央館）を中心に、各施設の位置付けと役割を「施設階層」として明確化し、施設配置の方向性を示す。

表 中央館を中心とした施設配置と想定規模

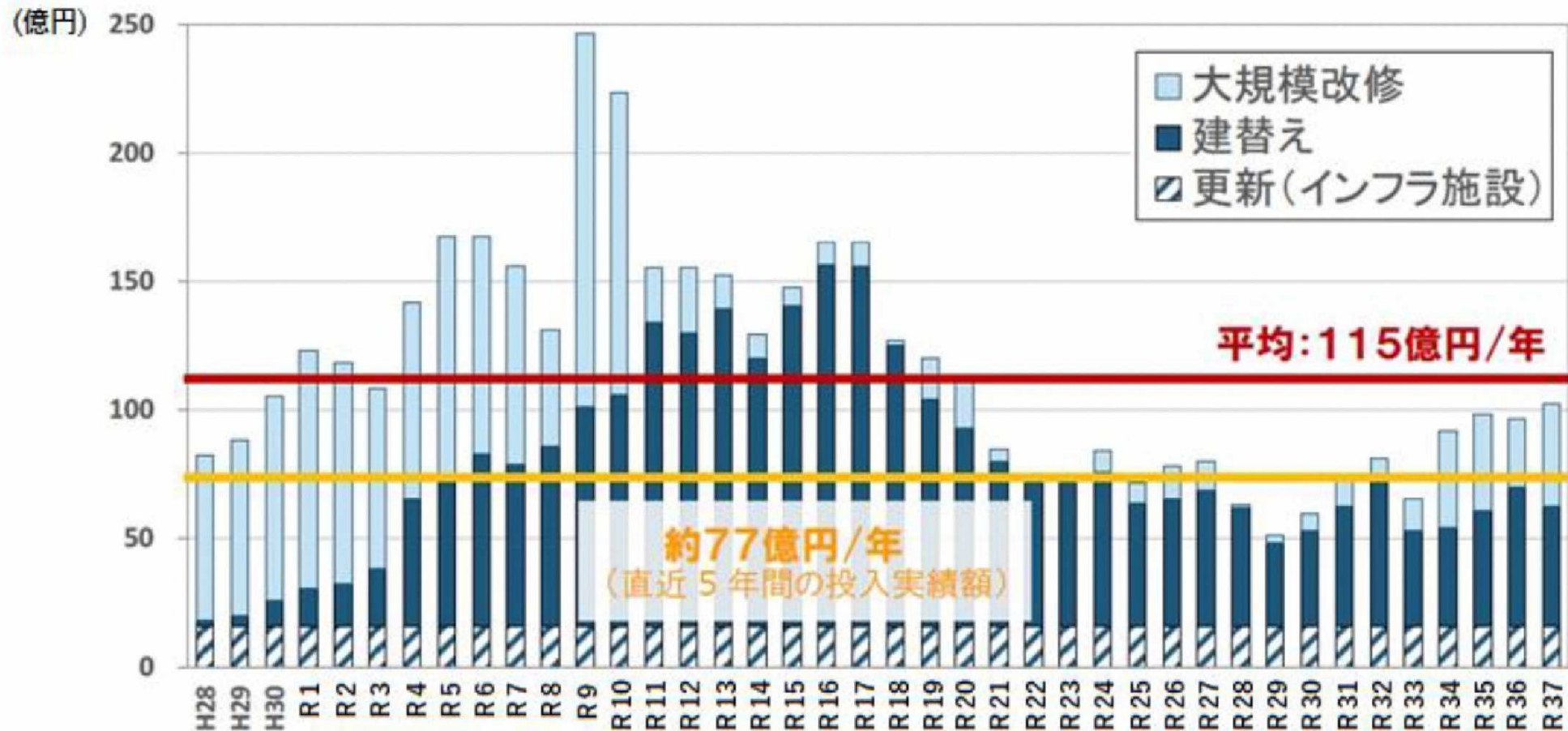
位置付け (施設階層)	施設数・配置	想定規模
中央館	1施設を市の中心エリアに整備	5,000㎡程度
地域館	2施設（庄内・千里）	庄内 1,000㎡程度（専有部のみ） 千里 2,379㎡（共用部含む）
分館	中央館・地域館を補完 （数施設に集約）	各500㎡程度
サービス ポイント	①鉄道駅等利便性の高い場所 ②他の図書館から離れた場所 に設置	各50㎡程度

公共施設のマネジメント



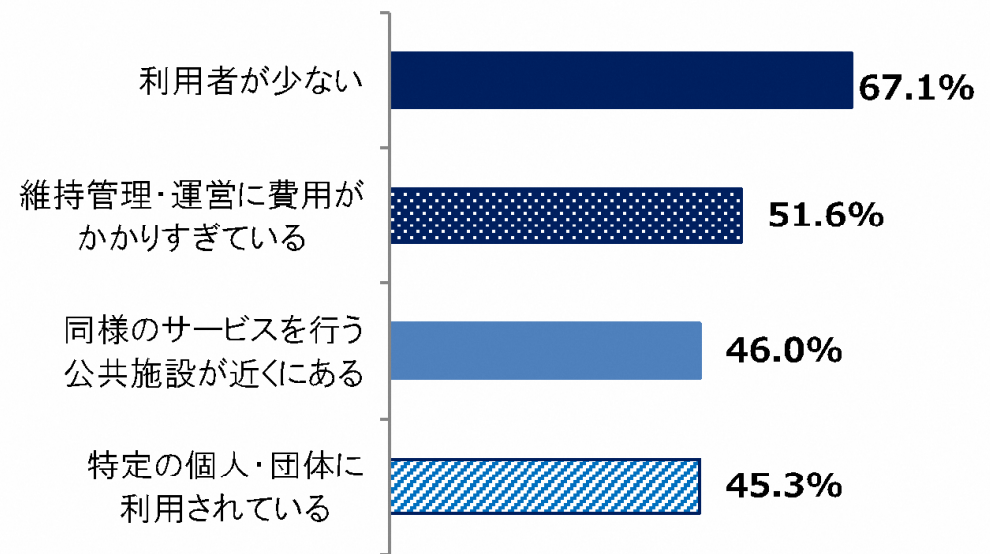
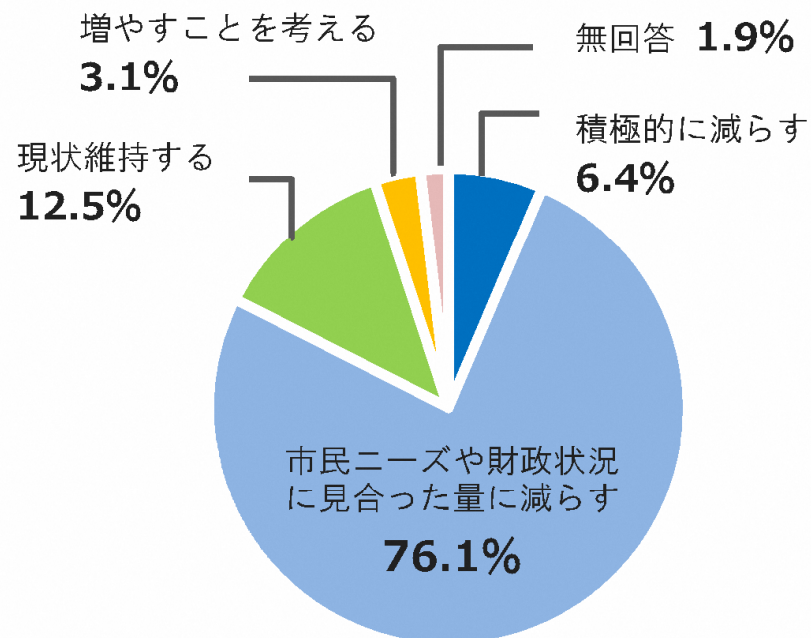
今後40年間の建替え（更新）・改修にかかる経費

- ◆ 豊中市では現在、344件の公共施設があります。（※施設カルテ令和2年度）
- ◆ 現状と同じ規模で建替え（更新）・改修を行うと今後40年間で約4,614億円、年平均にすると直近5年間の投入実績額約77億円を大きく上回る、約115億円が必要との試算結果。
- ◆ 令和10年代には、建物施設の建替えのピークを迎える見込み。



公共施設に関する市民アンケート結果

- ◆ 平成28年（2016年）7月に実施した市民アンケートでは、公共施設の量を「積極的に減らす」「市民ニーズや財政状況に見合った量に減らす」と回答した人が全体の8割を超える結果。

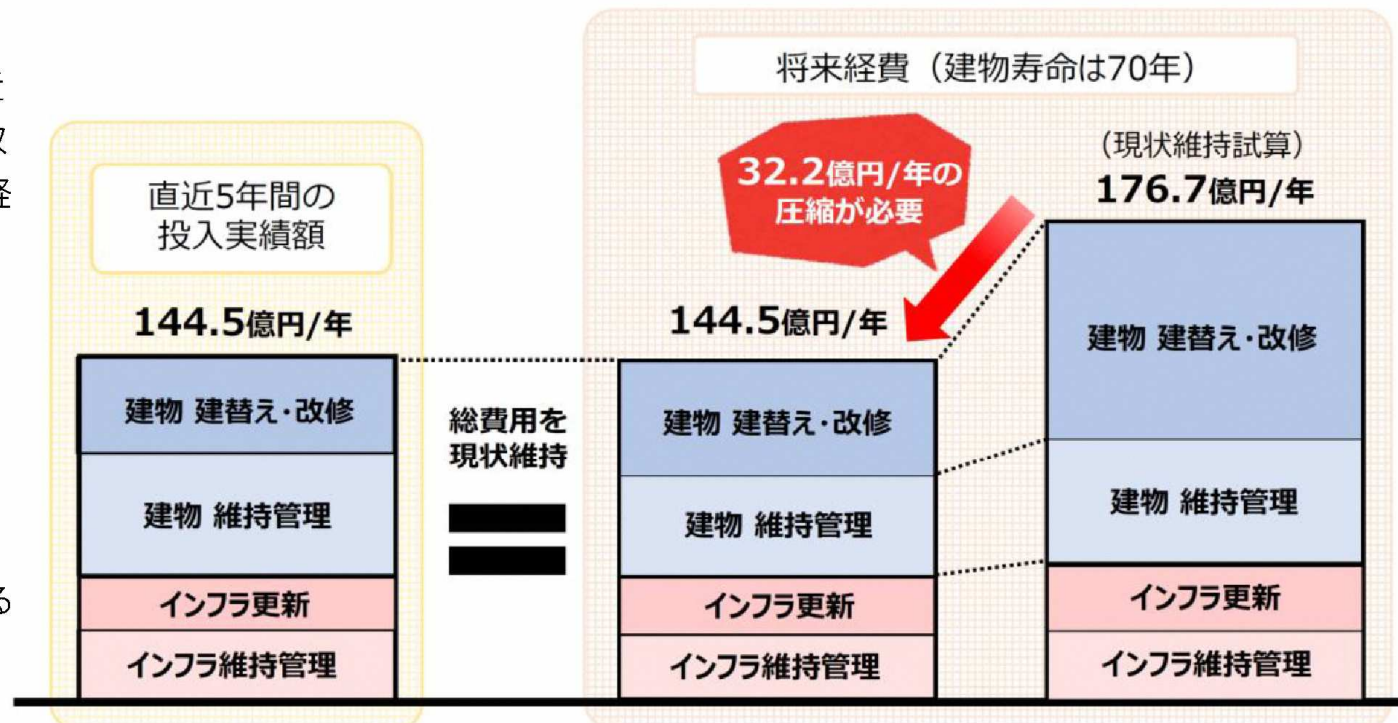


施設総量フレームの設定

- ◆ 計画期間は 平成29年度（2017年度）～令和22年度（2040年度）の24年間
- ◆ 建物施設について、24年間の計画期間内で総延床面積「平成26（2014）年度比80%」内での施設再編を計画。

施設総量フレームの考え方

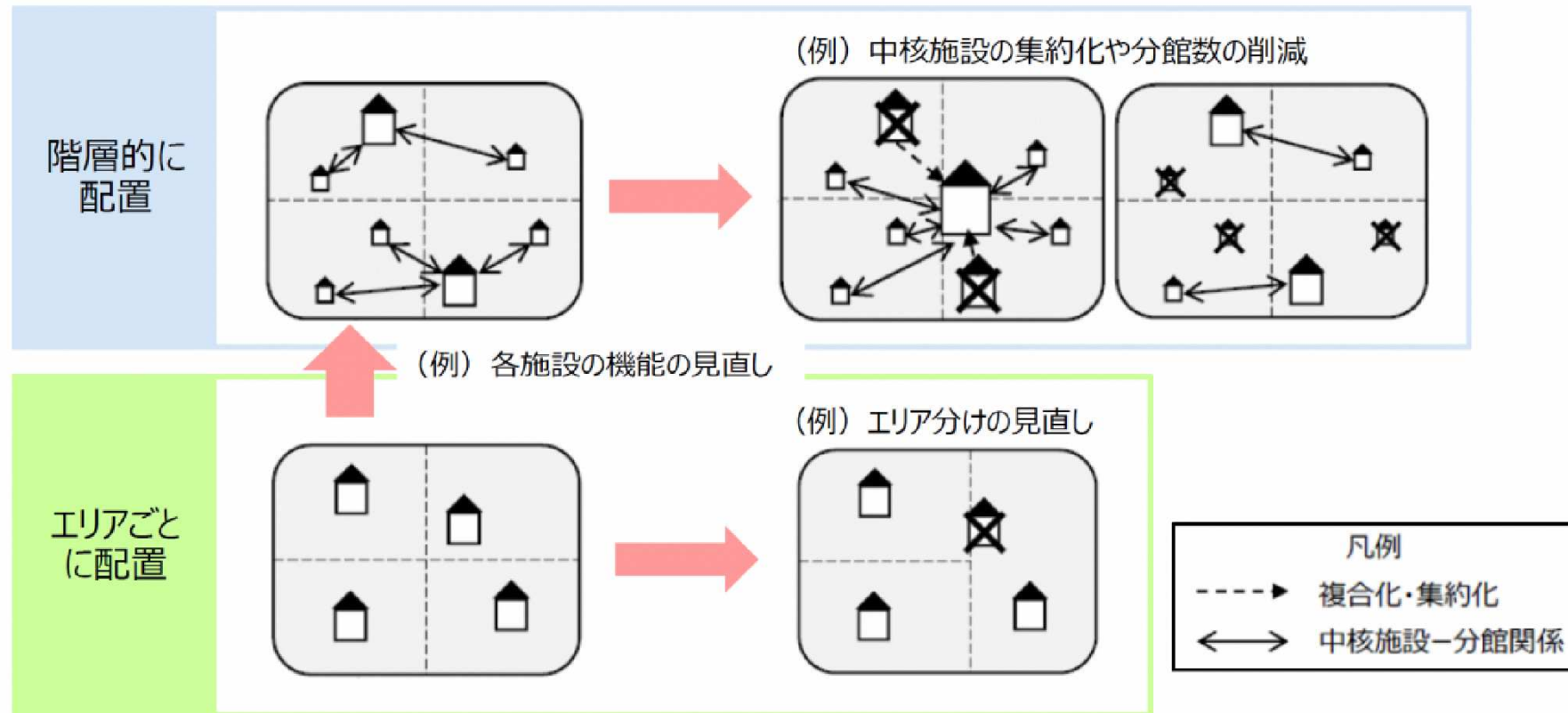
- 今後 40 年間の公共施設関連経費試算の結果、直近 5 年間の平均投入実績に収めるには、32.2 億円/年の経費圧縮が必要となります。
- そのため、インフラ施設関連経費も削減努力を行う一方で、建物施設については計画期間である 24 年間で平成 26 年度(2014 年度)比 80%の延床面積に収める施設総量フレームを設定します。



戦略的配置、複合化・多機能化の推進

◆ 施設の配置パターンに着目した複合化・多機能化により戦略的配置（施設再編）を推進

- 地域特性や利用圏域に配慮し、市民ニーズに応える最適な施設配置
- 機能に着目した施設再編による、必要なサービスの維持・向上と施設総量の削減の両立



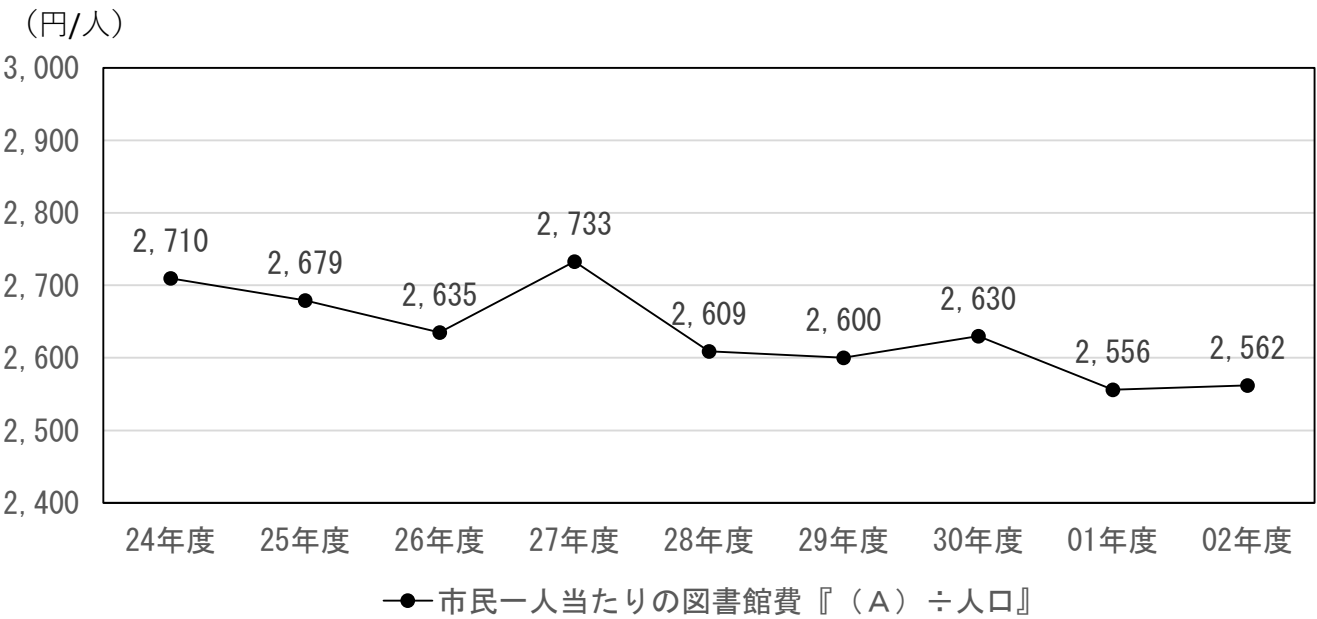
図書館の評価指標

市民一人あたりの図書館費

- ◆ 図書館マネジメントを評価する指標で市民一人あたりの図書館費を設定。
- ◆ 現在費用の圧縮が進んでおり、令和2年度では2,562円。

対応する基本方針	3. 未来へつなぐ ～持続可能な組織の構築～	
	評価指標	目標水準
指標⑤	市民一人あたりの図書館費※	令和6年度（2024年度）に2,300円 （仮称）中央図書館開館の翌年度に2,000円

※ここで言う図書館費とは、予算上の図書館費だけでなく、公共図書館の維持管理運営に関係する経費の総額とします。令和3年度は2,501円。

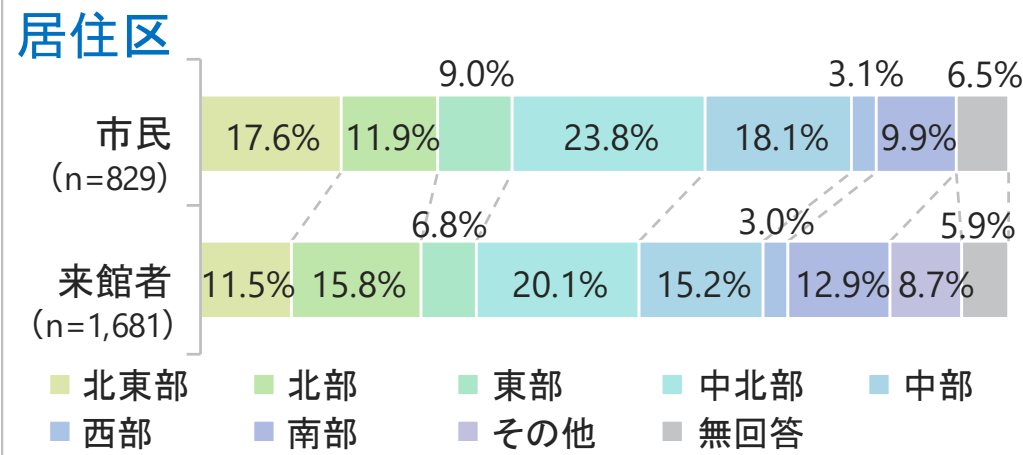
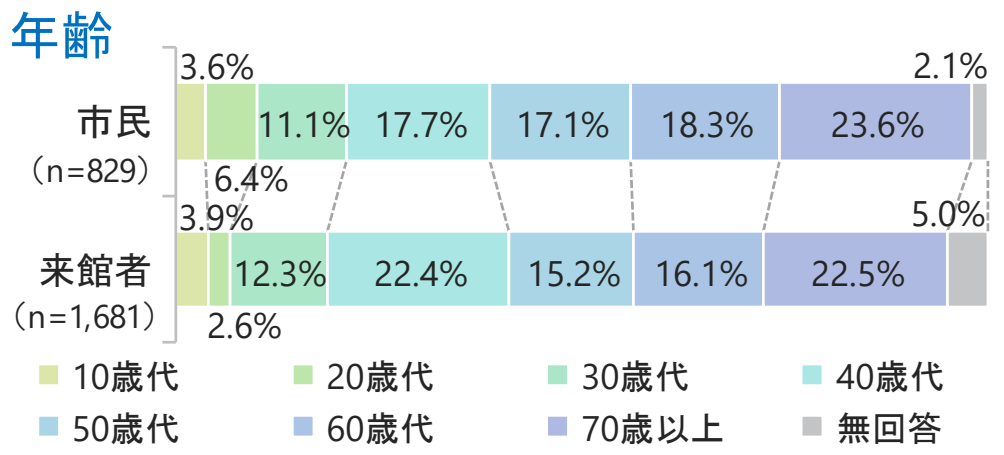


図書館アンケート



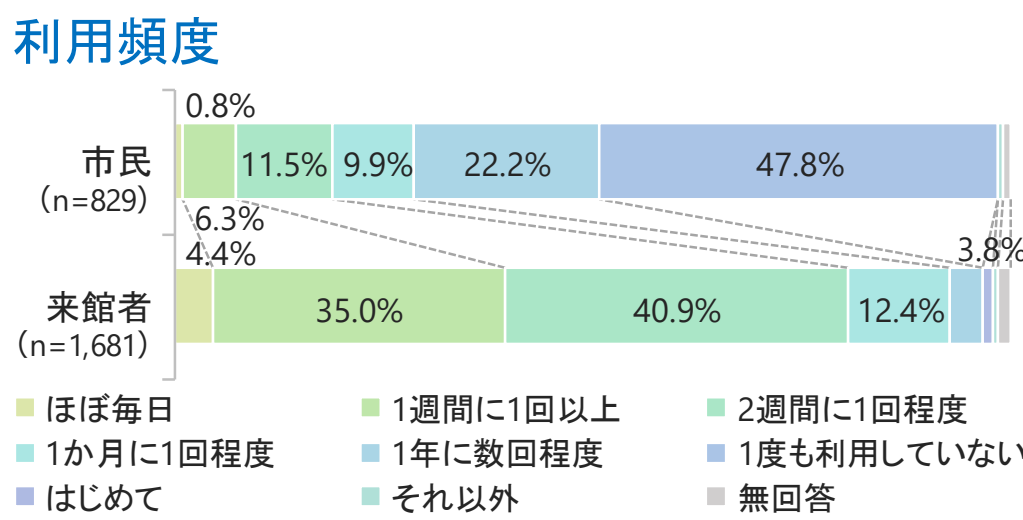
令和元年度（2019年度）アンケート調査結果

- ◆ 市民・来館者アンケートともに、70歳以上が20%以上、60歳以上が40%を占める（市外在住者は「その他」）。



各アンケート調査の回答者属性

- ◆ 市民アンケート調査では、過去1年間に市立図書館を1度も利用していない人の割合が約半数（47.8%）。
- ◆ 一方で、来館者アンケートでは、2週間に1度以上利用する人の割合が80%以上を占める。



図書館の利用頻度

令和元年度（2019年度）アンケート調査結果

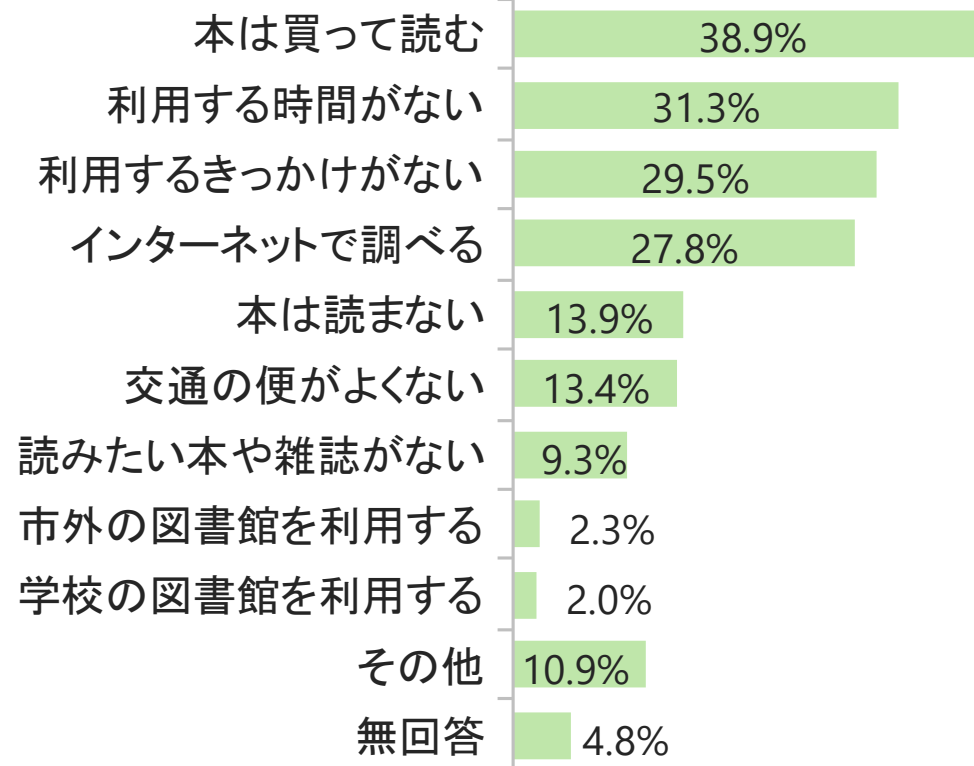
◆ 図書館を利用しない理由は「本は買って読む」「インターネットで調べる」といった、代替手段で解決した意見あり。

◆ 「利用する時間がない」「交通の便がよくない」など、図書館の利便性に改善の余地あり。

◆ 「利用するきっかけがない」という回答も多い。

◆ 今後図書館の利用者層を拡大していくためには、利便性の向上や、図書館を利用するきっかけづくりを行うことも重要。

利用しない理由



(n=396)

図書館を利用しない理由
(市民アンケート調査より)

令和元年度（2019年度）アンケート調査結果

〈中央図書館に望む機能〉

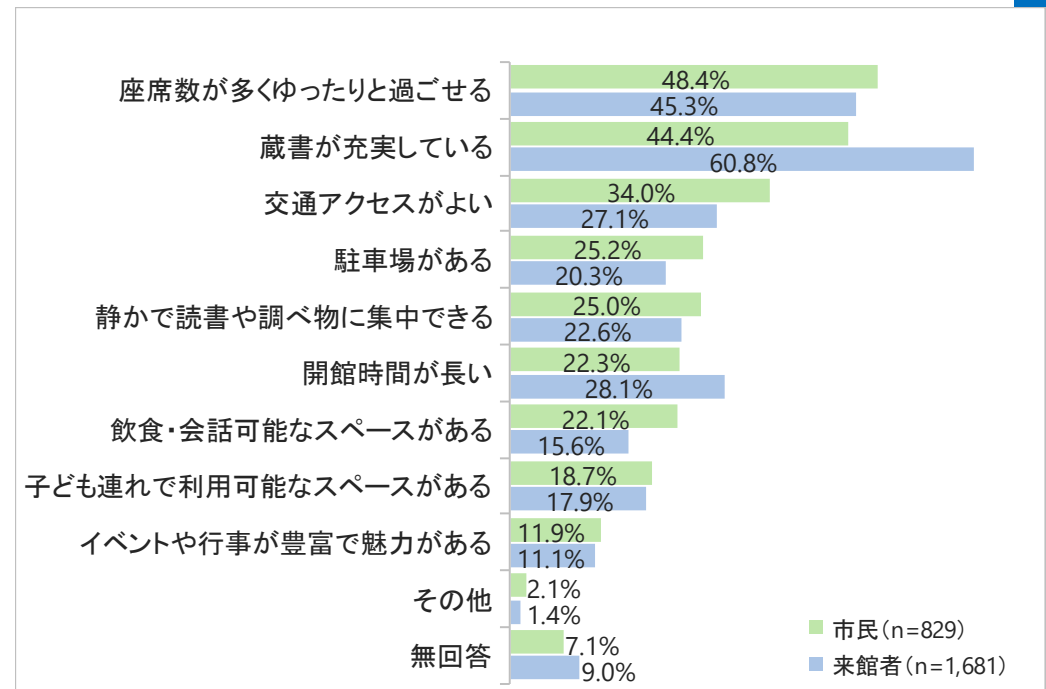
- ◆ 「座席数が多くゆったりと過ごせる」「蔵書が充実している」という意見が多い。（蔵書の充実は、特に来館者アンケートでその傾向が顕著。

〈滞在時間〉

- ◆ 図書館での平均的な滞在時間は1時間未満という人の割合が全体の80%を占める。

〈中央図書館にあれば良いスペース〉

- ◆ 「静かに読書をするスペース」「自習席」「パソコン利用席」の充実を望む意見が多い。「静かで読書や調べものに集中できる」が約25%。
- ◆ 「飲食・会話可能なスペース」や「子ども連れで利用可能なスペース」へのニーズも一定数見られた。

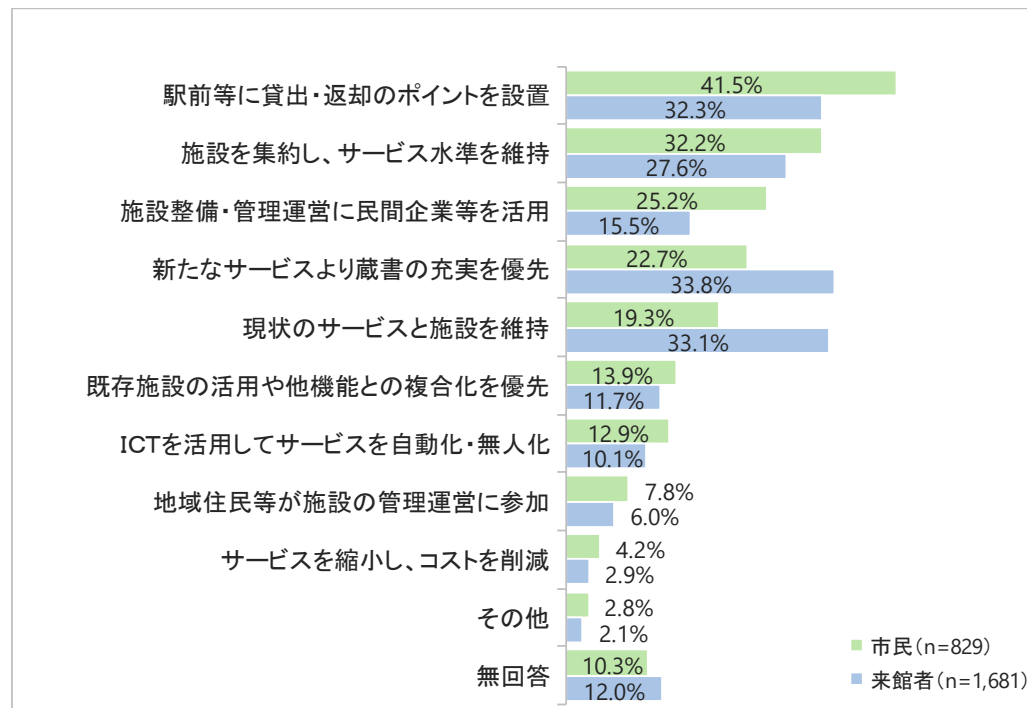


利用してみたい中央図書館

令和元年度（2019年度）アンケート調査結果

〈市立図書館全体のあり方の見直し〉

- ◆ 市民アンケート：「駅前等に貸出・返却のポイントを設置」が最も多く、40%以上。
- ◆ 「過去1年間に市立図書館を1度も利用していない」と回答した人の約42%が、駅前等への貸出・返却ポイントの設置を望む
- ◆ 来館者アンケート：「駅前等への貸出・返却ポイントの設置」を望む意見も30%以上と高かった。
- ◆ 「新たなサービスより蔵書の充実を優先」「現状のサービスと施設を維持」も30%以上と高い。

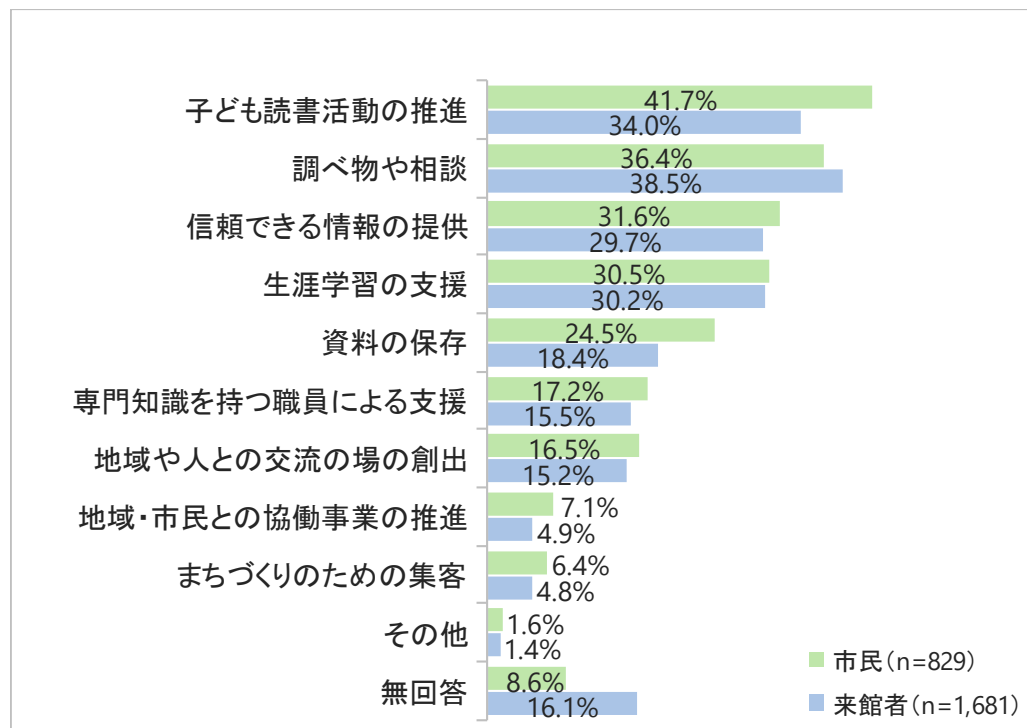


市立図書館全体のあり方の
見直しについての考え方

令和元年度（2019年度）アンケート調査結果

〈市立図書館において重要と考える役割〉

- ◆ 市民アンケート、来館者アンケートともに、「子ども読書活動の推進」や「調べ物や相談」との回答が多く見られた。
- ◆ 調べ物や相談については、「信頼できる情報の提供」に期待する意見が多かった点を考慮する必要がある。
(信頼性のある、確かな情報を判断する力の重要性これまで以上に必要)



市立図書館において
重要と考える役割



まとめ



〈豊中市の図書館の現状〉

- ◆ 地域館・分館・図書室と様々な形態があり、複合施設内での設置が多い。
- ◆ 公共交通の利用でアクセスできる位置にある図書館が多い。
- ◆ 利用者数は地域館・分館・図書室で差がある。

〈基本構想〉

- ◆ 図書館サービス（ソフト）・施設（ハード）の両面を含む構想。
- ◆ 「再編計画」は施設（ハード）の立地に関わる内容を引き続き検討。
 - 再編計画で求められる内容
 - 中央館・地域館・分館・サービスポイントの階層化
 - 中央館の立地（豊中駅・岡町駅・曽根駅の周辺エリアで設定）

〈公共施設マネジメント〉

- ◆ 市の財政負担軽減に向け、施設の集約化が引き続き必要。
- ◆ 持続可能な図書館サービスに向け、効率化が必要。

〈図書館アンケート〉

- ◆ 図書館を利用したことのない市民が約半数。
- ◆ サービスポイントの設置による利便性向上とあわせ、蔵書の充実や現在の施設とサービスの維持が求められている。

ワークショップの進め方



意見交換の方法について

意見交換を行うにあたっては、**ワークショップ**形式で実施します。

- 計画案の作成には、アンケート調査やパブリックコメントのように単方向でなく、**様々な立場の市民のみなさまが意見交換を行いながら検討することが必要**です。
- また、**多様な視点からのアプローチ**やこれまでになかった**アイデアが必要**です。

OK !



ワークショップとは

共通の課題を設定して、これを解決するために参加者がともに議論・協働作業を通じて、お互いの考え方や違いを学び、協力し合いながら解決案などをまとめていく作業です。

NG



ワークショップのルール

- ・ **人の意見を否定しない**
- ・ **自分と違う意見も尊重する**
- ・ **お互いの話をよく聞いて、積極的に意見交換**

ワークショップの進め方

司会が順番に振るので、改善策などの意見を発表してください。また、意見はポストイットに記入してください。

〇〇さんが考える
図書館に対するご意見をお聞かせください。

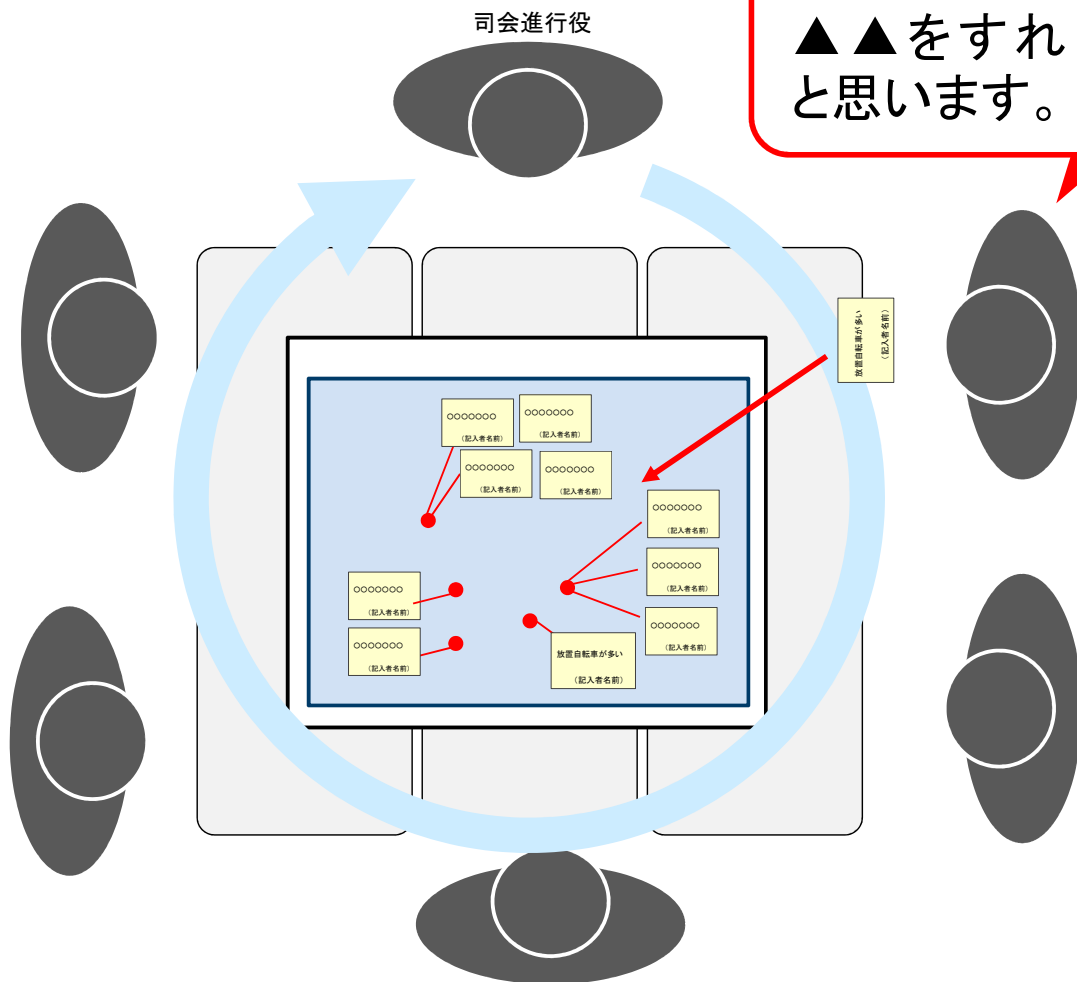
司会進行役

私は〇〇について、
▲▲をすればよい
と思います。

〇ポストイットイメージ

アクセスしやすさに
向けた▲▲の実施

ポストイットはたくさんあるので、**1枚に1つの項目**を記入



～ご説明は以上になります～

